

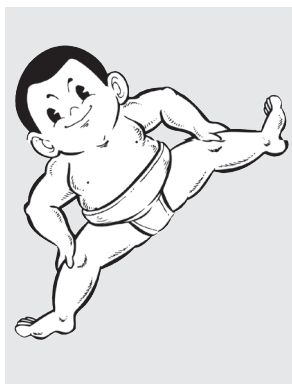
武道授業

実践の概要紹介

相撲

奄美市における中学校 武道必修化に向けた取組

奄美市では、平成24年度からの中学校武道必修化に伴い、平成22年度に各中学校の武道施設状況の調査を行いました。その調査を基に、平成23年度に学校の指導計画に基づき必要な設備や用具の予算化を行い整備を進めています。奄美市内の中学校には、ほとんど土俵が整備されており、現在、中学校12校中4校で相撲の授業を実施しています。ここでは、その相撲の授業の実践状況について紹介します。

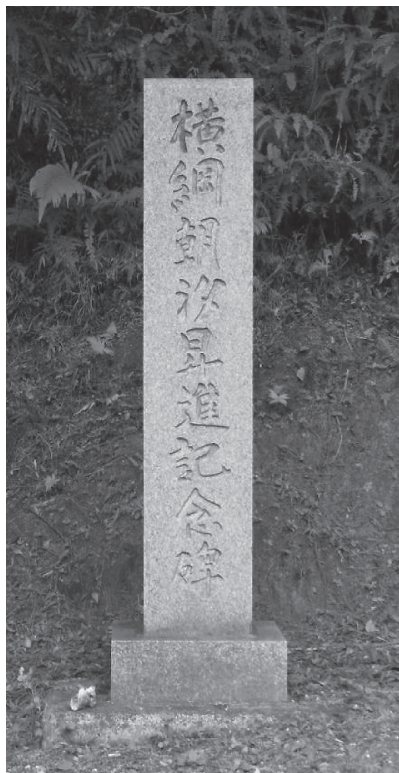


奄美市教育委員会

1 奄美市の概要と「相撲」との関わり

鹿児島県奄美市は、奄美群島の中でも一番大きな奄美大島にあり、平成18年3月20日に旧名瀬市・住用村・笠利町が合併し誕生しました。現在の人口は約4万7千人

です。面積は奄美大島全体の約4割を占め、中核都市としての機能をもつ名瀬地区、緑豊かな森林と清流をもつ住用地区、広い農地と美しい海岸線をもつ笠利地区で構



奄美市名瀬のおがみ山に
建つ横綱朝汐昇進記念碑



おがみ山から望む奄美市名瀬

成されており、南は太平洋に、北は東シナ海に面しています。
小学校21校、中学校12校、児童生徒数約4350名を抱える大島地区の中心となる市です。

ここ奄美の地は、古くより相撲の盛んな地で、多くの集落に土俵があり、十五夜相撲や親子相撲など地域行事としての相撲大会が数多く開かれるなど、地域の方々の相撲に対する関心はとても高いものがあります。また大相撲にも

数多くの力士を輩出し、中でも偉大な横綱、初代朝汐は郷土の誇りです。そのため、子どもたちの中には、幼少の頃より地域行事でまわしを身につけ、相撲に親しみをもっている生徒が比較的多くいます。相撲部の活動も盛んで、県中学校総合体育大会の相撲競技は、

ここ2年連続奄美市の会場で開催されています。全国的にもレベルが高く、一昨年は、奄美群島内の中学校が九州中学総体団体1、2位を独占し、全国中学総体でも団体3位、5位に入るなどの活躍を見せています。

2 奄美市の各中学校の相撲授業の実践

(1) 相撲大会の設定及びそれに向けての教育課程の工夫(住用地区)

住用地区では、例年5月下旬に地区の全小・中学校が集まり、住用地区相撲・球技大会を開催しています。これは、平日の午後2コマをこの時間に充て、小学校5年生から中学校3年生までの全ての男子が相撲を行い、女子は全員球技を行っています。

相撲競技では、団体戦、個人戦とあり、地区の相撲連盟の全面的





な協力のもと、本格的な相撲の試合が行われています。この大会は長い伝統があり、かつては郡民体育大会の予選も兼ねるなど技術的なレベルが高く、白熱した試合が行われていました。

これに先立ち、奄美市立住用中学校では、4月から5月にかけて正課体育の中で、1年から3年の男子生徒が、8時間の指導計画で授業を行っています。内容は、体育教師の指導のもと、まわしをし



技・取組といった一連の流れで行われていますが、相撲部などで本格的に経験している生徒もいるため、経験者が未経験者に教えるなどといった体制ができています。

奄美市立東城中学校では、同じく4月から5月にかけて、1年生から3年生までの生徒12名が4時間程度授業に取り組んでいます。内容としては、体育教師の指導のもと、土俵は使わず、体育館にマットを敷き、受けの練習・あたりの練習・転び方などの危険防止の



練習などを中心に行っています。特に、土俵に上る際の礼儀作法・姿勢・安全指導を中心に授業を展開しています。この東城中学校にも相撲部があり、経験者が複数いるため、初心者を受けや、技の模範をさせるなど効率的に取り組んでいます。

奄美市立市中学校は極小規模校であるため、現在、武道の授業は行われていませんが、平成24年度からは相撲マットを整備し、男女共に相撲に取り組んでいく予定に





武道館に隣接する名瀬中学校の土俵



校庭に建つ金久中学校の土俵

しています。

(2) 地域での体験を生かした指導の工夫(名瀬地区)

奄美市立金久中学校では平成22年度より、1年から3年生の男女全員に相撲の授業を行っています。8時間程度、男子は校庭にある土俵で、女子は体育館で行っています。

内容としては、体育教師の指導のもと、男子は、まわしの着け方・すり足・受け身・技・取組・ト

ナメント戦といった流れになります。人数が多いので、土俵上で練習するグループと土俵下で練習するグループと交互に行っています。土俵下で行う際は、生徒同士で技の教え合いを行うなど主体的な学びの姿が見られます。

女子は、体操服の上に柔道着の帯をまわしに見立て、体育館にマットを敷いて行っています。安全上の視点から主に押し相撲を中心に指導しています。

奄美市立朝日中学校では、10月

から8時間、1年から3年生の男子全員に相撲の授業を行っています。内容としては、体育教師の指導のもと、ストレッチ・まわし着け・しこ50回・すり足20本・約束練習・技の説明・取組といった流れで行っています。取組を待つ間は、生徒同士で技を教え合ったり、体さばきの練習をしたりしています。

両中学校ともに生徒は地域での相撲体験を幼少期から積んでいます。中でも朝日中学校は、地域行事での相撲大会が盛んなことから相撲に習熟している生徒もかなりおり、経験の度合いや体格・体力面の差なども考慮し、安全面に十分配慮しながら授業に取り組んでいます。

(3) 地域と一体となった部活動を中心とした取組(笠利地区)

笠利地区は、105年以上続く「招魂祭相撲大会」が毎年、子どもから大人まで参加して開催されており、奄美市の中でも特に相撲が盛

んな地区です。奄美市立赤木名中学校では、地域の外部指導者によって相撲部の指導が行われ、全国トップクラスの成績をあげています。

しかし、現在、体育の授業の中では相撲は取り扱っておりません。奄美市立笠利中学校では、平成24年度以降、男女ともに相撲の授業に取り組んでいく予定です。

3 今後の課題

以上のように、奄美市内においては、比較的多くの生徒が相撲に慣れ親しんでおります。武道の必修化を目前にして、残された課題の最たるものとして体育教師の専門的な知識が挙げられます。相撲の盛んな風土を生かしながら、うまく地域と連携を図り、相撲指導の充実に努めていくことが望まれます。